

【様式】

令和8年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立木本高等学校全日制)

1 めざす姿

(1)めざす学校の姿		・自分の良さを伸ばしながら、目標や夢の実現に向けて努力を続ける生徒育成する学校 ・地域に誇りを持ち社会に役立つ人を育み、地域に信頼される学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	・自分の夢や目標をしっかり持ち、その実現に向けて努力を続ける生徒。 ・学習や部活動に積極的に取り組み、自分の良さを伸ばそうとしている生徒。 ・地域に誇りや愛着を持ち、地元や県内、国内外で活躍する力を持つ生徒。
	【グラデュエーション・ポリシー】	
	ありたい教職員の姿	・目指す学校像実現に向け、連携の意識と向上心を持ち、自分の良さを活かして仕事をする教職員。 ・授業を大切に、生徒の学力向上と進路希望実現に努め、生徒の良さを引きだそうとする教職員。

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	【生徒】 進路実現に向けて学力向上や進路指導に力を入れてほしい。 【保護者】 毎日楽しく学んで成長し、進路希望を実現させてほしい。 【進学先】 目的意識が明確で、意欲的に学ぶ学生がほしい。 【就職先】 素直で元気が良く、向上心と粘り強さを持った人材がほしい。 【地域社会】 高校の力を活かして、地域を活性化したい。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待 【保護者】 子どもを理解し、それを踏まえた教育をしてほしい。安全安心な学校づくりを進めてほしい。 【中学校】 卒業生や高校の様子、入試に関する情報を知らせてほしい。 【地域社会】 地域行事や住民活動、防災の取組等で、高校生に活躍、協力してほしい。 【進学先】 基礎学力と目的意識を持たせて進学させてほしい。 【就職先】 社会人として必要なコミュニケーション能力を育成してほしい。	連携する相手への要望・期待 【保護者】 本校の教育活動に理解と協力をお願いし、特に家庭でのしつけと学習環境確保に努めてほしい。 【中学校】 基礎学力と目的意識を持たせて進学させてほしい。 【地域社会】 生徒の成長を温かく見守り、本校の教育活動に協力、支援をしてほしい。 【進学・就職先】 体験活動の実施や情報収集等キャリア教育を中心に、本校の教育活動に協力、支援をしてほしい。
(3)前年度の学校関係者評価など	・成績が下がっていることについて、何が原因なのかを検証する必要がある。 ・進路のミスマッチについて、進学先の状況などは把握しているのか。また、離職率はどうなっているかなどを把握し、対策を講じる必要がある。 ・生徒会活動など生徒が主体的に活動することは大切である。これからも安心できる高校であってほしい。 ・学力だけではなく、人間性も高めるような学校であってほしい。	

	教育活動	・3年生一人ひとりが進路目標を設定し、その実現に向けた指導を行うため、総合的な探究の時間における進路探究活動を、1 年次から段階的かつ計画的に実施するなどの工夫と充実が求められる。 ・進学希望生徒は指定校での進学を希望することが多く、生徒の適性・将来設計を考えた結果であるか疑問が残るところがある。就職希望の生徒についても仕事内容検討や企業研究不足の結果と思える採用試験の結果が見られる。 ・図書館だよりや展示など毎月情報を発信しているが、読まれていない印象がある。利用者の来館を増やすことや、情報を手に取りやすい環境にすることが必要である。学習参考書の対応が不十分だったため、積極的に更新し、必要な人が使えるように注意したい。 ・生徒会活動において、生徒が主体となって学校行事等を運営していくことができる環境を整備する必要がある。 ・人権学習を全クラス公開で実施する場合、事後協議(6限終了後)の時間をしっかりと設けるよう実施計画を工夫したい。 ・いじめ防止については、いじめアンケートや担任を中心とした観察・面談等で早期対応できたが、いじめが起らない風土の定着が必要である。 ・生徒の規範意識を下げないようにする環境整備が必要である。 ・避難経路に関して、安全性が危惧される点がある。よりよい避難経路(自動車道路の活用等)を検討し、垂直避難訓練の実施を計画したい。 ・歯科講話・保健講話ともに生徒の反応も良く、今後のライフプランを考える機会として、内容の検討を重ねながら継続していきたい。
(4)現状と課題	学校運営等	・教員一人一人の専門性向上のための授業改善を進めたい。教員同士の授業参観については具体的な目標数字を掲げて、参加を促していきたい。 ・昨年度は2・3年生で差別事象が2件発生した。再発防止のための校内研修を検討する。 ・昨年度の「特別支援教育についての講演」は参加しなかった教職員もいたので、特別支援教育への意識向上を含め研修の必要性を呼びかけていきたい。 ・教職員への救急法研修を年に一度以上継続して行い、全教職員が必要な対応が実践できるよう意識向上と技術の習得に力を入れたい。 ・コンプライアンスについて、実際に発生した具体的な事例を紹介して、常に教職員の意識を最新の状態に更新していく必要がある。 ・図書館、資料、司書の活用をより活発にするため、定期的に教職員へ活用方法を発信していきたい。 ・生徒一台端末の基礎的な対応を教員一人一人が対応できるよう、スキルアップを目指したい。 ・学校内の取組を知ってもらうために、地元新聞への情報提供は重要である。今後も積極的に発信していきたい。 ・昨年度、時間外労働時間が月45時間を超える教職員の割合が4分の1近くなった。一人当たりの平均時間外労働時間は少しずつ減ってきているので、さらなる業務削減の取組を進めていきたい。 ・昨年度の定時退校した教職員の割合は、前年度比で少しだけ増加した。引き続き定時退校しやすい日を設定できるように検討していく。 ・昨年度の60分以内に終了した会議の割合は、前年度の約半数だった。会議の数は少ないので、1回の会議時間が長くなっている。会議の開催方法等を含めて検討する必要がある。 ・昨年度の夏季休業以外の年休取得日数は10.8日となった。さらに年休が取得しやすい環境を整える必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	・各教科及び総合的な探究の時間等の授業を中心に、生徒一人ひとりの意欲を高め、学力を伸ばす。 ・年間を通して多様な特別活動に取り組み、生徒一人ひとりと向き合い、規範意識を高める。 ・各教科、総合的な探究の時間及び特別活動等、教育活動全体を通じて、生徒一人ひとりに応じた進路保障に努める。
学校運営等	・全教職員が連携して授業改善とキャリア教育を進め、生徒の学力向上と進路希望実現に努める。 ・教職員が意欲的に充実感を持って仕事に取り組めるよう、連携・協力の態勢を強化し、業務内容の見直しと効率化をすすめ、総勤務時間を縮減する。 ・地域等のニーズ把握と連携、PRに努め、教育活動を改善し、地域からの信頼を深める。

4 求める生徒像

入学時に期待される 生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	(参考:令和6年度入学生まで) 【普通科】 ・志望動機が明確で、高校生活にしっかりとした目標・目的意識を持つ生徒。 ・特に、明確な進路意識を持って、その実現のために努力を継続できる生徒。 ・学業が優秀であり、普通科での学習活動に真面目に取り組める生徒。 ・特に、共通教科を中心とした普通科での学習に取り組むために必要な基礎学力や興味・関心、学習意欲等を有する生徒。 【総合学科】 ・志望動機が明確で、高校生活にしっかりとした目標・目的意識を持つ生徒。 ・学業が優秀であり、総合学科での学習活動に真面目に取り組める生徒。 ・特に、スポーツ活動や文化活動または生徒会活動等に取り組んできた経験や、それらについての優れた実績や能力があり、入学後もその活動を生かして学校生活を送ることができる生徒。
---	---

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の 充実	●3学年 ・面談等により、生徒一人ひとりの状況を把握し、学年団で情報共有を行いながら生徒に対応する。 【活動指標】 ・年3回の面談と必要な情報共有を行う。	(年度末および適宜記載)	
	●総務教務部(教務) ・学習習慣の定着を図り、成績の低下を防ぐ。 【活動指標】 ・定期考査や学年末の成績などのデータをクラス担任等が活用し易いようデータを整理する。	(年度末および適宜記載)	◎

進路指導・ キャリア教育の充実	●3学年 ・生徒一人ひとりが進路目標を設定し、進路実現に向けた指導を通して卒業後の自分の姿を想定させ卒業に導く。 【活動指標】 ・年3回の面談を通じて生徒一人ひとりの状況を把握する。総合的な探究の時間に進路探究活動を行う。	(年度末および適宜記載)	
	●進路指導部 ・生徒一人ひとりの希望を丁寧に聞き取り、生徒の適性等をふまえた進路指導を行う。 ・希望進路の実現に向け継続的な学習支援を行う。 【活動指標】 ・担任団へのキャリア情報の提供及び支援を行う。 ・必要に応じて生徒と面談を行う。 ・放課後の時間を利用した進学補講を実施する。	(年度末および適宜記載)	◎
	●図書部 ・生徒の学力向上および進路希望の実現に向け、必要な資料を収集し、利用促進を図る。 【活動指標】 ・学習参考書や問題集など、受験・就職試験に必要な資料を計画的に購入し、利用できる環境を整える。 ・館外への情報発信を積極的に行う。 ・図書館だよりや展示などを通して情報共有を行う。 【成果指標】 ・生徒への年間貸出冊数を前年度より増やす。	(年度末および適宜記載)	
	●生徒指導部(生徒会) ・生徒が中心となって、学校行事を企画し実行する。 【活動指標】 ・アンケート等を活用して、生徒の意見を集め学校行事に反映する。 【成果指標】 ・体育祭・文化祭について、生徒の70%以上が「良かった」等の肯定的感想を持てるようにする。	(年度末および適宜記載)	
一人ひとりを大切に した安全安心の学校づくり	●総務部(総務) ・南海トラフ巨大地震を見据えて、防災に対する意識を高め、実践的な防災教育を推進する。 【活動指標】 ・地震津波避難訓練や防災に関する講話等を年3回以上実施する。 【成果指標】 ・実施した講話について、80%以上の生徒が「学んで良かった」等の肯定的感想を持てるようにする。	(年度末および適宜記載)	
	●保健部 ・保健所や専門家の協力を得て、思春期の課題に関する講演会を行い、命の大切さや自分自身を大切にすることについて考える機会を持つ。 【活動指標】 ・講演会を年1回以上実施する。 【成果指標】 ・実施した講話について、80%以上の生徒が「学んで良	(年度末および適宜記載)	

	かった」等の肯定的感想を持てるようにする。		
	●図書部 ・読書を通して豊かな心を育む。 【活動指標】 ・図書館や本に親しむための取り組みを行う。 ・図書館や読書への関心を高めるイベントを実施する。 ・図書委員など、生徒の視点を生かした活動を行う。 【成果指標】 ・生徒の年間貸出利用者率を前年度より増やす。	(年度末および適宜記載)	
	●生徒指導部 ・いじめは許さないという学校風土を定着させ、いじめの未然防止・早期発見・早期対応を徹底するとともに、生徒がいじめ等について相談し易い環境を作る。 【活動指標】 ・いじめについての生徒アンケートを年3回以上実施し、その結果を分析・確認し、教職員全体で共有する。 【成果指標】 ・いじめとして認知しているケースの50%以上について、解消の見通しが立った状態にする。	(年度末および適宜記載)	◎
	●人権教育 ・自分だけでなく他者の人権も尊重する意識を育み、人権に関わるさまざまな問題に目を向け、その解決に向けた学習をする機会を設ける。 【活動指標】 ・人権学習を年2回実施する。 ・年1回、全校人権フェスティバルを実施する。 【成果指標】 ・実施した人権学習について、80%以上の生徒が「学んで良かった」等の肯定的感想を持てるようにする。	(年度末および適宜記載)	※
改善課題			
(年度末に記載)			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教職員の資質・能力向上の取組	●総務教務部(教務) ・教員同士による授業公開を促進する。 【活動指標】 ・授業公開週間(教員用)を昨年の2週間から3週間設定に延長する。 【成果指標】 ・前年度の授業公開週間の授業見学数よりも多くする(のべ30回以上とする)。	(年度末および適宜記載)	◎

	●教育相談 ・教育相談や特別支援教育に関する知識やスキルの向上を図るための校内研修を実施する。 【活動指標】 ・年1回以上実施する。 【成果指標】 ・参加した教職員の80%以上が、「知識やスキルが向上した」と感じられるようにする。	(年度末および適宜記載)	
	●保健部 ・教職員対象の救急法講習会を実施する。 【活動指標】 ・年1回以上実施する。 【成果指標】 ・参加した教職員の80%以上が、「講習で学んだことを生かせる」と感じられるようにする。	(年度末および適宜記載)	
	●人権教育部 ・教職員の人権感覚の向上を図る。 【活動指標】 ・人権教育に関する校内研修を年1回以上実施する。 ・各担任団及び人権教育推進委員会において人権学習の指導案検討を行う。 【成果指標】 ・校内研修に参加した教職員の80%以上が、「知識やスキルが向上した」と感じられるようにする。	(年度末および適宜記載)	※
	●学校全体 ・信頼される学校・教職員であり続けるための取組を実践する。 【活動指標】 ・生徒に体罰・セクハラ防止に関するアンケートを実施するとともに、教職員対象の校内研修を実施する。 ・不適切な事務処理等の事例を全教職員で共有する。 ・全教職員対象のコンプライアンス・ミーティングを年1回以上実施する。 【成果指標】 ・校内研修やコンプライアンス・ミーティングに参加した教職員の90%以上が、「不祥事根絶のために役立った」と感じられるようにする。	(年度末および適宜記載)	◎
チームワークの向上・意欲の増進	●進路指導部 ・担任団と連携して進路指導業務と進路に関する情報共有を行うことで、教員の進路指導に関する資質・能力を高める。 【活動指標】 ・担任団と進路指導部による打ち合わせ会を年2回以上実施する。	(年度末および適宜記載)	◎
	●図書部 ・教職員の授業内容及び学習活動の充実を支援し、図書館の資料・設備・司書の活用を促進する。 【活動指標】 ・職員向けの利用案内を作成し、図書館の活用方法を提示する。	(年度末および適宜記載)	

	・授業利用を含む図書館の活用方法について、情報を発信する。 【成果指標】 ・授業での図書館活用回数を前年度より増やす。		
	●総務教務部(情報) ・教職員の ICT に関する要望に対して、アドバイス及びサポートを行う。	(年度末および適宜記載)	
情報提供による信頼の構築	●学校全体 ・報道機関等への情報提供や取材依頼を通して、生徒の姿を中心に、本校の取組内容や成果について、積極的に情報発信を行う。 【活動指標】 ・報道機関に対して、年5回以上の情報提供や取材依頼を行う。 【成果指標】 ・地域の中学校卒業予定者数を踏まえつつ、各学科への志願率を概ね前年度以上とする。	(年度末および適宜記載)	
保護者・地域住民等との連携	●総務教務部(情報) ・学校ホームページを活用して情報発信を行い、保護者や地域との連携の促進を図る。 【活動指標】 ・ホームページに学校行事等の記事を月1回以上掲載する。	(年度末および適宜記載)	
働きやすい職場環境づくり	●学校全体 ・教職員の時間外労働時間の削減に取り組む。 (1)次世代の育成に必要な指導体制を確立するため、業務の大胆な見直し・精選・削減・効率化を進め、学校の規模や教員数に応じた業務の適正化を図る。 【活動指標】 ・学校マネジメントシートの作成を通じて、それぞれの業務の目的・課題等について検討し、業務の見直し・改善を図る。 【成果指標】 ・時間外労働時間が月45時間および年間360時間を超える教職員を0人とする。 ・一人当たりの平均時間外労働時間が月30時間以下とする。	(年度末および適宜記載)	◎
	(2)定時退校日の設定 【活動指標】 ・定時退校日を月1回設定する。 【成果指標】 ・定時退校日に定時退校した教職員の割合を70%以上とする。	(年度末および適宜記載)	※
	(3)部活動休養日の設定 【活動指標】 ・部活動の休養日を週1回以上設定する。 【成果指標】 ・部活動休養日を月4回以上設定できた部活動の割合を100%とする。	(年度末および適宜記載)	※
	(4)会議時間の短縮	(年度末および適宜記載)	※

	【活動指標】 ・放課後に開催する会議の時間を60分以内にする。 【成果指標】 ・放課後に開催し、60分以内に終了する会議の割合を80%以上とする。		
	(5)学校閉校日の設定、年休の取得推進 【活動指標】 ・学校閉校日を年3回以上設定する。 【成果指標】 ・夏季休暇等の特別休暇とは別に、年次有給休暇の年間取得日数の合計が1人平均15日以上とする。	(年度末および適宜記載)	※
改善課題			
(年度末に記載)			

6 学校関係者評価

明らかにした改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
--------------------	----------

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)